

SVN UUID の不一致と SVN のデータ同期

目次

[概要](#)

[SVN UUID の不一致](#)

[PCRFClient VM 間での SVN 同期の確認](#)

[SVN リポジトリの同期の修正](#)

[SVN の同期の再初期化](#)

[スクリプト](#)

[check svn sync.sh](#)

[svn uuid mismatch.sh](#)

概要

このドキュメントでは、PCRFClient01 と PCRFClient02 間で Subversion control (SVN) リポジトリを同期する方法について説明します。

SVN UUID の不一致

ポリシービルダー (PB) のすべてのポリシー設定は、SVN リポジトリとして保存されます。したがって高可用性 (HA) にするには、PCRFClient の仮想マシン (VM) の両方で、同じ SVN ユニバーサル ユニーク ID (UUID) をもつ必要があります。ただし、Cisco Policy Suite (CPS) バージョン 7.X では、PCRFClient VM 間で同じ UUID を持っていません。つまり、より高い CPS バージョンには同じ UUID があります。機能拡張のバグが、Cisco Bug ID [CSCuu85319](#) として登録されました。両方の PCRFClient0X VM で同じリビジョン番号を持つ場合、HA を実現することができます。

PCRFClient VM 間での SVN 同期の確認

PCRFClient VM 間で UUID が同じではないため、次のコマンドを入力します。

```
svn info http://pcrfclient01/repos/configuration
```

```
svn info http://pcrfclient02/repos/configuration
```

注: これらのコマンドと共に、PCRFClient01 と PCRFClient02 VM の正確なホスト名を提供する必要があります。また、SVN リポジトリが PCRFClient VM 間で同期されているかどうかを確認するため、[check svn sync.sh](#) スクリプトも使用できます。このスクリプトは、この項目の末尾に記載されています。

これらの Quantum Network suite (QNS) のエラー ログに気付くことがあるかもしれません。これらのエラー メッセージは、[svn uuid mismatch.sh](#) スクリプトで確認できます。このスクリプトは、この項目の末尾に記載されています。

```
svn info http://pcrfclient01/repos/configuration
```

```
svn info http://pcrfclient02/repos/configuration
```

次に示すように、VM 間で UUID が異なる場合でも、バージョンが同じでなければなりません。両方の PCRFCClient VM の SVN バージョンが同じ場合、SVN リポジトリの同期が発生し、その結果高可用性が実現します。

```
===PCRFClient01===
```

```
[root@pcrfclient01 ~]# svn info http://pcrfclient01/repos/configuration
Path: configuration
URL: http://pcrfclient01/repos/configuration
Repository Root: http://pcrfclient01/repos
Repository UUID: ed2f2f76-f588-443e-9bb8-3fb05abd903b
Revision: 392 <<<< revision number
Node Kind: directory
Last Changed Author: broadhop
Last Changed Rev: 392
Last Changed Date: 2015-06-01 15:52:12 -0600 (Mon, 01 Jun 2015)
```

```
===PCRFClient02===
```

```
[root@pcrfclient01 ~]# svn info http://pcrfclient02/repos/configuration
Path: configuration
URL: http://pcrfclient02/repos/configuration
Repository Root: http://pcrfclient02/repos
Repository UUID: 70e98d90-b9c7-4c5b-a3db-681dd68c62a6
Revision: 392 <<<< revision number
Node Kind: directory
Last Changed Author: broadhop
Last Changed Rev: 392
Last Changed Date: 2015-06-01 15:52:12 -0600 (Mon, 01 Jun 2015)
```

SVN リポジトリの同期の修正

前のセクションでは、SVN リポジトリの同期を確認する方法について説明しました。ここでは、SVN の同期を修正する方法について説明します。PCRFCClient01 がプライマリで、PCRFCClient02 がセカンダリで、PCRFCClient02 の SVN リポジトリは同期されていないと仮定します。

PCRFCClient02 の SVN リポジトリを PCRFCClient01 と同期させるには、次の手順を実行します。

1. PCRFCClient01 で、SVN 同期ジョブを無効にします。

```
crontab -e
```

```
Comment this cron job entry:
```

```
/usr/bin/svnsync sync http:// pcrfclient02/repos-proxy-sync
```

注: ここでは、PCRFCClient02 は PCRFCClient02 VM のカスタマー ホスト名です。

2. PCRFCClient02 にログインし、「/etc/httpd/conf.d/subversion.conf」を編集し、この太字テキストで更新します。

```
<Location /repos-proxy-sync>
```

```
DAV svn
SVNPath /var/www/svn/repos
Order deny,allow
Deny from all
Allow from pcrfclient01 <<< # customer host name of PCRFCClient01 VM
</Location>
```

3. PCRFCClient02 VM で、HTTPD サービスを再起動するため、次のコマンドを入力します。

```
service httpd restart
```

4. PCRFCClient01 で、SVN データを同期するため、次のコマンドを入力します。SVN リポジトリの同期は、リビジョンの数とサイズに応じて、時間がかかる場合があります。

```
/usr/bin/svnsync sync http://pcrfclient02/repos-proxy-sync
```

注: ここでは、PCRFCClient02 は PCRFCClient02 VM のカスタマー ホスト名です。ロックエラーが報告されたら次のコマンドを入力し、次に `svnsync` コマンドを再実行します。

```
/usr/bin/svn propdel svn:sync-lock --revprop -r 0 http:// pcrfclient02/repos-proxy-sync
```

まだエラーが発生する場合、「[SVN の同期の再初期化](#)」に進みます。

5. SVN リポジトリのリビジョン番号が PCRFCClient01 と PCRFCClient02 で同じであることを確認するには、[check_svn_sync.sh](#) スクリプト、または「[PCRFCClient VM 間での SVN 同期の確認](#)」で示したコマンドを使用します。

6. PCRFCClient01 で、SVN 同期ジョブを有効化します。

```
crontab -e
```

```
/usr/bin/svnsync sync http://pcrfclient02/repos-proxy-sync
```

SVN の同期の再初期化

セクション「[SVN リポジトリの同期の修正](#)」の手順 4 でエラーが発生した場合のみ、これらの手順を実行します。前のセクションでエラーが発生しない場合、これらの手順は無視できます。

注: 次の手順を実行する前に、シスコテクニカルサポートチームにお問い合わせください。

1. SVN 同期を再初期化する前に、まず haproxy 設定の `svn_proxy` から PCRFCClient02 を無効にします。スタンバイ lb (この例では lb02) に移動し、「`/etc/haproxy/haproxy.cfg`」を変更し、ここに示す太字の行をコメントアウトします。

```
listen svn_proxy lbvip02:80
mode http
balance roundrobin
option httpchk
option httpclose
option abortonclose
server pcrfclient01 pcrfclient01:80 check
#server pcrfclient02 pcrfclient02:80 check backup
```

アクティブ lb (この例では lb01) に移動し、HA フェールオーバーを行うため、次のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/heartbeat restart
```

「`haproxy/memcached/VIP`」が他の lb (この例では lb02) に移行したことを確認します。スタンバイ lb (現在 lb01 がスタンバイ) に移動し、「`/etc/haproxy/haproxy.cfg`」を変更し、太字の行をコメントアウトします。

```
listen svn_proxy lbvip02:80
mode http
balance roundrobin
option httpchk
option httpclose
option abortonclose
```

```
server pcrfclient01 pcrfclient01:80 check
#server pcrfclient02 pcrfclient02:80 check backup
```

アクティブ lb (現在 lb02 がアクティブ) に移動し、HA フェールオーバーを行うため、次のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/heartbeat restart
```

「haproxy/memcached/VIP」が他の lb (この例では lb01) に移行したことを確認します。

2. PCRFClient02 で、SVN リポジトリのディレクトリを再初期化するため、次のコマンドを入力します。

```
tar -czf /var/tmp/repos.tar.gz /var/www/svn/repos
mkdir -p /var/www/svn/repos
rmdir /var/www/svn/repos
/usr/bin/svnadmin create /var/www/svn/repos
chown -R apache:apache /var/www/svn/repos
```

3. PCRFClient02 で、次のデータで、パス「/var/www/svn/repos/hooks/」に「pre-revprop-change」という名前のファイルを作成します。

```
tar -czf /var/tmp/repos.tar.gz /var/www/svn/repos
mkdir -p /var/www/svn/repos
rmdir /var/www/svn/repos
/usr/bin/svnadmin create /var/www/svn/repos
chown -R apache:apache /var/www/svn/repos
```

4. PCRFClient02 で、前に作成したファイルの権限を変更するため次のコマンドを入力し、さらに HTTPD サービスの再起動を実行します。

```
chmod 700 /var/www/svn/repos/hooks/pre-revprop-change
chown apache:apache /var/www/svn/repos/hooks/pre-revprop-change
service httpd restart
```

5. PCRFClient01 で、SVN データの同期を行うため、次のコマンドを入力します。

```
/usr/bin/svnsync init http://pcrfclient02/repos-proxy-sync
http:// pcrfclient01/repos-proxy-sync
/usr/bin/svnsync sync http:// pcrfclient02/repos-proxy-sync
```

注: PCRFClient01 と PCRFClient02 の代わりに、設定に応じて PCRFClient01 と PCRFClient02 の適切なホスト名を入力します。

6. SVN リポジトリが同期されたかどうかを確認するには、「[PCRFClient VM 間での SVN 同期の確認](#)」の手順を実行します。
7. haproxy 設定の SVN プロキシから PCRFClient02 を有効にします。基本的に、手順 1 でコメントアウトした行をアンコメントします。スタンバイ lb (この例では lb02) に移動し、「/etc/haproxy/haproxy.cfg」を変更し、ここに示す太字の行をアンコメントします。

```
listen svn_proxy lbvip02:80
mode http
balance roundrobin
option httpchk
option httpclose
option abortonclose
server pcrfclient01 pcrfclient01:80 check
server pcrfclient02 pcrfclient02:80 check backup
```

「haproxy/memcached/VIP」が他の lb (この例では lb02) に移行したことを確認します。

```
listen svn_proxy lbvip02:80
mode http
balance roundrobin
option httpchk
option httpclose
option abortonclose
server pcrfclient01 pcrfclient01:80 check
server pcrfclient02 pcrfclient02:80 check backup
```

「haproxy/memcached/VIP」が他の lb (この例では lb02) に移行したことを確認します。

スタンバイ lb (現在 lb01 がスタンバイ) に移動し、「/etc/haproxy/haproxy.cfg」を変更し、ここに示す太字の行をアンコメントします。

```
listen svn_proxy lbvip02:80
mode http
balance roundrobin
option httpchk
option httpclose
option abortonclose
server pcrfclient01 pcrfclient01:80 check
server pcrfclient02 pcrfclient02:80 check backup
```

アクティブ lb (lb02 がアクティブ) に移動し、HA フェールオーバーを終了するため、次のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/heartbeat restart
```

「haproxy/memcached/VIP」が他の lb (この例では lb01) に移行したことを確認します。

8. PCRFCClient01 で、SVN 同期ジョブを有効化します。

```
crontab -e/usr/bin/svnsync sync http://pcrfclient02/repos-proxy-sync
```

スクリプト

check_svn_sync.sh

PCRFCClient VM 間の SVN の同期を確認するため、CPS システムにこのスクリプトを配置します。

```
crontab -e/usr/bin/svnsync sync http://pcrfclient02/repos-proxy-sync
```

svn_uuid_mismatch.sh

各 QNS VM から SVN UUID に関連するエラー メッセージを監視するため、CPS システムにこのスクリプトを配置します。

```
crontab -e/usr/bin/svnsync sync http://pcrfclient02/repos-proxy-sync
```